

# 脳卒中後遺症「痙縮」の治療

けいしゆく

## ボツリヌス治療①

### 当院の脳卒中の現状

当院は、脳卒中全体で、県内2位の症例数を扱っています。脳卒中は、日本人死因の第4位であり、厚生労働省平成26年患者調査によると患者数117.9万人、平均在院期間89.5日と、今なお大変な疾患です。

### 脳卒中の後遺症「痙縮」

脳卒中は、発症から回復という一層性の経過を辿ることが多く、適切なリハビリが集中的に加えられないことでADL（日常生活動作）やQOL（生活の質）が回復します。一方で、回復過程を辿っても、麻痺が1ヶ月以上持続する方、上肢・下肢機能が上手く扱えない方などが多く見られます。こういった回復の遅延、介護の妨げになる症状が、痙縮です。

痙縮と言われても聞き慣れない言葉かも知れませんが、筋肉が緊張しすぎて、手足が動きにくかったり、勝手に動いてしまう状態を言います。（※痙縮の具体的な症状は3ページ参照）痙縮の治療も日進月歩ですが、主な治療

として、薬物療法、物理療法、装具療法などがあります。今回はボツリヌス治療をご紹介します。

### ボツリヌス治療って？

ボツリヌス治療はボツリヌス毒素製剤を痙縮の強い筋肉に直接注射することによって、痙縮を改善する治療です（図1）。毒素と聞くと大丈夫なのかと思われるかも知れません。ボツリヌス毒素は、ボツリヌス菌によって産生される菌体外毒素ですが、無感染させた成分を使いますので、ボツリヌス菌に感染することは決してありません。取り扱いにあたっては、取り扱いに熟知し、投与・施術についての講習を修了した医師のみに許可されています。当院では3名の医師が既に講習を修了しており、施術を行っています。

ボツリヌス毒素は、神経筋接合部、自律神経終末、痛覚受容体線維に対して働きます。最大の問題点は、痙縮の抑制が一時的であることです。痙縮の改善は数か月にわたって持続します

が、確実に元の痙縮に戻ってしまいます。しかし、これはある意味、利点でもあります。治療の効果が出すぎて、弛緩し、力が入りにくい状況となっても確実に回復すること、また、2回目には量を加減して最大の効果が出る量に調整することができることを意味します。一度の治療で効果が出なくとも、数回繰り返して、最適な量に調整することができます。

図1 ボツリヌス治療



### ボツリヌス療法での注射部位（一例）

痙縮の見られる筋肉に注射します。注射部位は患者さんによって異なりますが、一度に数ヶ所注射する場合もあります。

<p>とうそくしゅこんくつきん</p> <p><b>橈側手根屈筋</b></p>  <p>手首をまげる動作などに関与する筋肉</p>	<p>せんしくつきん</p> <p><b>浅指屈筋</b></p>  <p>手首をまげる動作などに関与する筋肉</p>	<p><b>大胸筋</b></p>  <p>物を持つ動作などに関与する筋肉</p>	<p><b>上腕二頭筋</b></p>  <p>物を持つ動作などに関与する筋肉</p>
---	--	---	--

治療を受けた後に副作用として以下のような症状があらわれることがあります。これらの症状は多くが一時的なものです。症状があらわれた場合には医師にご相談ください。

- 注射部位が腫れる、赤くなる、痛みを感じる
- 体がだるく感じる、力が入りにくい

このドクターに聞きました！

神経内科 主任診療科長  
認知症疾患医療センター長  
脳卒中センター副センター長

とみやす かずひろ  
**富保 和宏** 医師



### Check!

#### ボツリヌス治療対象外の患者さんは？

ボツリヌス治療対象外の患者さんは、下記の方があげられます。

- 重症筋無力症
- 筋萎縮性側索硬化症
- ランバート・イートン症候群
- 呼吸機能障害のある痙性斜頸
- 妊婦・妊娠の可能性のある方
- 注射部位に感染症を有する方
- ボツリヌス毒素に関して過敏症・アレルギーを有する方

脳卒中、ボツリヌス治療について何かご不明点・疑問点があれば神経内科外来担当医にご相談ください。